

2026 年度 (令和 8 年度) 学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 203	福山市立城南中学校
最終更新日		2026年(令和8年) 8月 28日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	・自己を認識する力 ・自分の人生を選択する力 ・表現する力
・子ども達の主体性や多様性を表現する場が設定されており、教職員のサポートが適切に行われている。 ・生徒自身が考え、決めて、選ぶことを大切にしていることが伝わる。 ・学校と家庭、地域と家庭のつながりに課題がある。	・「自ら考え、決めて、選ぶ」ことが多くの児童生徒に定着している。 ・知識、技能の定着に課題がある。 ・授業への姿勢や、家庭での過ごし方など、学習基盤になる部分の改善が求められる。	めざすこども像 (義務教育修了時の姿)	・自分が打ち込めることを見つけ、目標に向かって一生懸命取り組む児童生徒 ・地域から学び、社会に貢献する児童生徒
		中学校区として 統一した取組等	・学習指導要領に立ち返り、知識・技能の定着にこだわった授業づくりを各学校で実践する。 ・総合的な学習の時間や、特別活動を中心として地域と協働した教育内容を実践する。

III 自 校

学校教育目標
自律 ～自ら考え、決めて、選ぶ～

現 状
<児童生徒> ・86%の生徒が「考える、決める、選ぶ」ことを大切にしていると回答しており、昨年とほぼ数値が変わらず、定着している。 ・「学校生活の中で、自分の考えが認められている。」と回答する生徒の割合は90%で、自らを表現できる環境をつくることできている。 ・運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答した生徒の割合は20%（前年度比－4%） ・学校図書館を利用したことのない生徒の割合は21%（前年度比－6%） <授業> ・授業で考えるのは楽しいと肯定的に回答した生徒は75%。（前年度比＋4%） ・課題について自分の「ことば」で説明できていると回答した生徒は79%。（前年度比±0%）

育成する 資質・能力	・自己を認識する力 ・自分の人生を選択する力 ・表現する力
めざす こども像	○各教科の学習や行事、地域での学びや体験を通して、自分のよさや課題を理解し、地域や社会の中で成長しようとする生徒。 ○地域の人や社会の人の多様な生き方に学び、各教科の学習や行事での経験をもとに、自分で考え、将来や生き方を主体的に選択しようとする生徒。 ○地域や社会の課題に目を向け、各教科や行事での学びを生かして、自分の考えや思いを適切に表現し、社会に貢献しようとする生徒。
研究	テーマ 学習基盤を整え、知識・技能の確実な定着を図る授業づくり 内容等 ・「学習基盤づくり」…授業と家庭学習をつなぐ学習習慣を育てるとともに、安心して学べる教室環境と学習規律を整える。 ・「めあてを明確にした授業づくり」…学習のねらいを明確にし、生徒が見通しをもって学習に取り組める授業を行う。 ・「学びを整理するまとめ・振り返り」…学習のまとめりごとに学びを整理し、自分の言葉で説明できる力を育てる。
めざす授業の姿	生徒は ○学習習慣や規律を身に付け、家庭学習での学びを活かしながら主体的に学習に取り組んでいる。 ○授業のめあてを理解し、達成に向けて見通しをもちながら課題に取り組んでいる。 ○学んだことを、自分の言葉で整理しながら表現している。

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
5	1 生徒自ら、成長するための 学び方を探究し、課題を乗り越えていこうとする力を 育成する。	★	見 直 し	学習基盤を整え、 家庭学習までを見通した授業を 計画し、生徒の知識・技能の定着を 図る。また、学び や経験を、自分の 将来や社会に生かしていこうと する生徒を育成する。	・学習規律を徹底し、学ぶ環境を整える。 ・「何ができるようになるか」を明確にするとともに、家庭学習までを見通し、生徒が学びを実感できる授業設計を行う。	・標準学力調査における正答率40%未満の生徒の割合を、市平均以下にする。 現状（市平均との差） 3年国…+6.8% 3年数…+4.9% 2年国…+16.7% 2年数…+7.3%	□10分休憩、予鈴、学習端末の保管場所など、授業を落ち着いて始められる学習環境を整えた。 □試験期間の家庭学習時間3時間以上、平均点60点以上という明確な指標を示し、生徒会とともに取組を進めた。 □生徒のつまずきについて仮説を立てることで授業改善を行った。 ・評価指標の数値（4月）は 3年国… +5.6% 3年数… +3.2% 2年国… +14.2% 2年数… -0.3% 1年国… +2.3% 1年数… -0.2%	3	3	①上半期の取組を継続し、定着させることで、中間層の学習意識を高める。 ②学習班の機能の質向上を目指した取組を実施することで、正答率40%未満の生徒への支援につなげる。 ・定期試験における正答率 40%未満の割合の推移（昨年度末→1学期末） 3年 29%→28% 2年 39%→39% 1年 19% ③学習への評価とフィードバックを充実させる。				
			見 直 し		・総合的な学習の時間や、特別活動を中心として地域と協働した教育内容を実践する。	・学んだことや経験したことが、自分の将来や社会に役立つと回答する生徒の割合を80%以上にする。 (現状：数値なし)	□総合的な学習の時間において、地域まちづくり計画を基にした地域探究を行っている。 ・評価指標の数値は91% 2	3	3	・総合的な学習の時間における授業の目標やねらいを明確に定め、より組織的な取組とともに、必要に応じて地域人材の活用を図る。				

3

5	4		継 続	主体的に新たなことにチャレンジしている教職員を増やす。	• それぞれの職員の適性や能力にあった役割分担を行う。 • 教職員同士が「子どもの姿」を共有できる環境をつくる。	• 「仕事にやりがいを感じる」と回答する職員の割合を増加させる。 (現状：88%)	○ 生徒の落ち着いた実態や学力向上を職員が実感できるように、様々な取組を計画し実行した。 • 評価指標の数値は91%	3	3	• 個々の取組やを学校全体で共有し、その成果を組織的に活用する。 • 管理職による教職員全員との面談を実施する。						
---	---	--	--------	-----------------------------	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

[総合評価の評価基準]

評価点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評価点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評価点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。